

宮崎県立宮崎大宮高等学校「特別の教育課程の編成の方針」

1. 特別の教育課程を編成する理由（背景・目的）

本校は、2015（平成27）年の文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」指定を皮切りに、2020（令和2）年には「ワールドワイドラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業カリキュラム開発拠点校」、さらに2024（令和6）年には同「拠点校（グローバル人材育成強化事業）」の再指定を受け、長年にわたり国際社会を牽引する「グローバル・イノベティブ・リーダー」の育成に邁進してきた。

これまで本校の文科情報科が中心となり、地域と世界を結びつけて捉える課題研究や海外研修など、先進的なカリキュラム開発を牽引してきた。その最大の成果が、WWL事業を通じて創設された学校独自の枠組みである新教科「グローバル協創」である。

2026（令和8）年3月をもって国のWWL事業は終了を迎えることとなったが、本校が培ってきたこの価値ある教育実践と先進的な学びの灯を絶やすことなく、今後も持続・発展させていく必要がある。そこで、国の事業終了後も独自に研究組織と教育実践を継続し、本校の生徒へ質の高いグローバル教育を提供し続けるため、今年度より「教育課程特例校」の指定を受け、特別の教育課程を編成することとした。

2. 特別の教育課程の特色および設置する教科

本特例校の指定により、文科情報科において新教科「グローバル協創」の開設を継続する。本教科は、既存の枠組みを超えた柔軟な知の融合を図るため、以下の教育課程上の特例措置を講じている。

○教科「情報」と「総合的な探究の時間」の融合（従来の取り組み）

情報化社会に必要な専門スキルと、自ら課題を発見し解決する探究のプロセスを一体化させ、高度な情報収集・分析・発信力を備えたグローバルリーダーを育てる。

○教科「理科（科学と人間生活）」と「総合的な探究の時間」の融合（2025年4月より開講）

科学的なものの見方や自然科学の知見を、実社会の課題解決（探究）へとシームレスに結びつけ、テクノロジーや自然環境の視点からイノベーションを起こせる人材を育成する。

これらを融合させた科目群を適切に配置することで、生徒が地域社会（ローカル）の課題に根ざしながらも、世界の多様な人々と手を取り合って新たな価値を生み出す（グローバルな協創）力を養う。

3. 教育目標

新教科「グローバル協創」の実施を通じて、以下の資質・能力を育むことを目標とする。

- ①**課題発見・解決能力**： 地域や地球規模の諸課題に対し、情報技術や科学的知見を多角的に活用して解決策を導き出す力。
- ②**協働・コミュニケーション能力**： 多様な価値観や背景を持つ人々と対話し、主体的に協調・協創していく力。
- ③**イノベティブ精神**： 失敗を恐れず、社会に新しい価値や変革をもたらそうとするリーダーシップと開拓者精神。